

パブリックコメント「私が描く“とくしまの未来の姿”」の募集結果について

新しい総合計画の策定にあたり、「私が描く“とくしまの未来の姿”」に関する意見募集を行った結果、86名の方から106件のご意見を頂きました。頂いたご意見は、新しい計画策定の参考とさせていただきます。
貴重なご意見を頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

募集期間：平成30年5月9日から6月30日まで

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
1	過疎のまま、関西圏の食料、レジャー、学習基地として	人口減少、農業の放棄地、商業地の無計画な配置、無駄な道路を始めとしての公共工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電車で徳島から明石海峡大橋まで、そこからバスになって海を渡る。直結させる。 ・ 同じく、海部からディーゼルカーからバスになり高知まで。 ・ 大学は4大学の単位互換 ・ 南の海岸、剣山麓には休暇村 ・ 徳島駅前に大商店街、吉野川河川敷は駐車場、バスも列車も徳島駅を中心に ・ 阿波市に近代工場群 ・ 人形浄瑠璃と同じく西洋の子ども向けの人形劇のメッカにする ・ 農業や林業は会社組織で個人経営はなくなり、労働者を四季おりおりにバランスよく働けるようにする 	<p>行きつくところまでいかないと気付かない。ひたすら落下する。落ちて行きつくまで手の打ちようがない。極限にならないと、土地を離さないし、過疎地のコンパクトシティにも協力はなく、試行錯誤しながら、落ちていくだけである。</p>	<p>室戸の方面と同じく明石まで、DMV（だった、電車とバスは）つなぐことが、新幹線より実現性がある、現在の高速道路の横のみ使用（やがては使うが）して電車を走らせることです。</p>
2	まちづくり	自動車がなくては日常生活が送れない。	自動車が運転できなくても買い物支援や公共交通ネットワークが充実し、日常生活を快適に送ることができる。	コミバス等の身近な移動手段の充実が図れている。	
3	子育て環境の充実	子育て世代への育児支援が十分でない。	職場の働き方改革や、地域での子育て支援を行う環境が整い、子育て環境が充実している。	職場の働き方改革が進んでいる。	
4	教育環境の充実	少子化により子どもが集団スポーツ等の団体活動をする機会が減っている。	どこに住んでいても多様な教育を受けられる環境が整っている	どこに住んでいても多様な教育を受けられる環境が整っている	
5	福祉	高齢になると外出機会が減り、日常生活の楽しみが減る。		高齢者がいきいきと過ごせる社会が実現している。	
6	子育て支援の充実			仕事と育児の両立できる社会が実現している。	

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
7	徳島阿波おどり空港の整備促進について	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島阿波おどり空港における国内線（札幌新千歳線，仙台線，成田国際線，中部国際線，沖縄那覇線）と国際線（台北便，香港便，北京便，広州便，大連便，シンガポール便，バンコク便）との両方の定期航空路線の充実 ・徳島阿波おどり空港の滑走路の3000m化への延伸を行う。 ※函館空港，青森空港，岡山空港，長崎空港，大分空港，熊本空港，鹿児島空港の滑走路の長さは3000m		国から「経済技術開発区」と「国際医療観光IR特区」の認定を受けた徳島県に国内外から飛行機でビジネス客や観光客が徳島空港に降り立っている。 ※国際観光のシンガポールや経済技術開発区の広州の例	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県が徳島阿波おどり空港を「第二関西国際空港」の位置づけを行った上で、徳島阿波おどり空港を「四国徳島国際空港」に空港の名称を改定する。 ※佐賀県営有明佐賀空港は九州佐賀国際空港になりました。 ・徳島阿波おどり空港の旅客ターナルビルの管理運営の民営化を行う。 ※仙台空港や高松空港の民営化の例
8	徳島県らしい長期的な観光資源の獲得	阿波おどり、鳴門周辺の観光地以外の観光地への集客が不足している。 課題 観光資源の原石を磨けていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・国外からの観光客が年間百万人以上訪れる。 ・将来にわたって継続的な観光収入を得られる低コストなシステムが完成する。 ・環境に十分な配慮がなされ、徳島の自然資源などの観光資源を恒久的に保護できている。 	国内からの観光客が増加する。 観光客増加による諸問題が、法整備、規制により安定し、安全で健全な観光産業が育つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県、各市町村全て ・JR四国もしくは新しい鉄道事業者 ・フェリー事業者 スローガン「ゆったり20世紀とくしま」 国内外のディーゼル車を取得し主に県南の通常ダイヤで運用する。走行させる。（鉄道ファンの来県） 車両の電力化を行い、将来的には架線を使用しない電動列車を運用する。（観光産業の永続化） 海岸沿いをフェリー運行しスロー観光を楽しむ『島』として国外から観光客を呼び込む。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
9	「vs東京」の取組について	徳島県が徳島県民に対して「vs東京」の具体化や明確化の事柄を示す。	徳島県が「世界の中の徳島」になる。→東京は「世界の中の東京」である。	徳島県が「世界の中の東京」に対して、大都会の東京に追いつけ・追い越せの基本方針で望む。 ※徳島県の国際化の進展→徳島大学に外国の理学博士，工学博士，医学博士，歯学博士，薬学博士，農学博士の博士号の学位を持つ教授が集結する。 ※徳島県立徳島北高等学校を徳島県立徳島国際高等学校にする。 ・東京都立国際高等学校の例	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県庁VS東京都庁 ・徳島阿波おどりVS東京音頭おどり ・とくしまマラソンVS東京マラソン ・徳島ラーメンVS東京ラーメン ・徳島大学VS東京大学 ・鳴門教育大学VS東京学芸大学 ・徳島県立城南高等学校VS東京都立日比谷高等学校 ・徳島県立徳島科学技術高等学校VS東京都立科学技術高等学校 ・徳島県立城ノ内中学校VS東京都立小石川中等教育学校 ・徳島ヴォルティスVSFC東京 ・徳島ヴォルティスVS東京ヴェルディ ・徳島インディゴソックスVS東京ヤクルトスワローズ ・とくしま動物園VS多摩動物公園 ・とくしま植物園VS神代植物公園 ・徳島県立近代美術館VS東京都美術館 ・徳島県立博物館VS東京都江戸東京博物館
10	「自然再生可能エネルギー立県とくしま」を目指して	太陽光発電における2019年問題が迫っている。	地産地消の自然再生可能エネルギーで徳島県は自然再生可能エネルギーの宝庫になっている。	徳島県は世界に向けて自然再生可能エネルギー技術を輸出している。	自然の豊かな徳島県にあって、太陽光発電，太陽熱発電，風力発電，小水力発電，洋上風力発電，波力発電，潮流発電，バイオマス発電等を結び付けるICTスマート・グリッドの整備促進が必要
11	子育て支援		子育てに適した環境が十分に整っている。	仕事と家庭の両立ができる仕組みが十分に整っている。	
12	雇用の創出		安定的な働き方ができる社会が実現されている。	雇用の場が創出され、若者が夢を持って働くことができる。	
13	子育て	子どもたちが安心して思う存分遊べる場所が減っている。	子どもたちの笑顔があふれ、安心して健康的に過ごしていける社会が構築されている。	子どもたちが遊べる場所が充実している。	公園に防護柵を設ける等、子どもが心置きなく遊べる場所を確保していく。（県民、行政）

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
14	自然豊かな徳島創り	身近に豊かな自然があるにもかかわらず、無関心な人が多い様に思う。他県では失われつつある昔ながらの風景が、徳島にはまだある。しかし、河川敷には粗大ごみが捨てられていたり、安易に失われつつある気がしてならない。	他県では失われつつある自然が豊かな徳島に、多くの観光客が自然に触れ合うためにやってくる。日本列島で徳島ほど海・川・山が身近に存在し、自然が守られ、動植物との共生が成り立っている土地は無い。コウノトリも群れを成して生活している。	自然への関心が深まるようなイベントや勉強会が通年、開催されている。自然保護が進み、四季折々の植物、昆虫が年々数を増やしている。子どもが自然と触れ合えるイベントや勉強会が活発に行われている。	違法なゴミ投棄を厳しく罰する条例やパトロールの強化。自然と触れ合うウォーキング大会や勉強会の開催。定期的な清掃活動。徳島に生息する動植物や、徳島の自然を再認識できる動画作りなどで、県民に関心を寄せてもらう。
15	いろんな事業がやりやすい町	徳島県の人口減少の原因は、徳島で仕事をするメリットがないことが一番の原因。よって以下の取組が必要。 ・税金が他県よりやすい ・月に2回東京に出張するような事業スタイルでも、東京で事業するよりコストが低くなる（土地代、維持費、人件費） 仕事をする人が増える = 人口が増える = 税収入が増える = 公共サービスが良くなる = 子育てサービスなどの事業も増える	日本以外とのビジネスが行いやすい町にする ・英語、中国語教育の充実。無料で英会話ができる環境。 ・高速インターネット・無料インターネット ・日本らしい 祭り・風景が徳島にある（アメリカ・中国の映画製作などを呼ぶ） ・徳島にしかない、美しい川と街並みが混在する風景をもっとアピールできるものにする（積極的な清掃や、ゴミ放置への罰則強化） ・徳島からも積極的に映像作品などを創出する（美しい街並みがあれば自然と生まれる）		
16	お遍路さんを迎え入れるお接待文化の充実	高齢のお遍路さんの歩き遍路が困難	100歳時代に適した、年齢に即した歩き遍路が可能となっている。海外からのお遍路さんに混じって、高齢のお遍路さんが自分のペースで、県民との交流をしながら、安心安全な宿泊先を利用しながら、楽しそうに自然を眺めながらたくさん歩いている。	足腰に不安のある高齢者のための、筋力維持・健康維持の施設が整っている。質の高い、科学的な、例えば、百歳体操がいつでも自宅の近所で、適切な指導者のもとで行うことができる。その施設は、お遍路さんも利用できる。そこでは、歩き遍路の注意点についての情報提供も行う。県民とお遍路さんとの交流の場所となる。また、そこから、県民によるお遍路さんへの宿泊も含むお接待も生まれてくる。一人一人の県民にも、自らお遍路を試みる意識が生まれてくる。	県民に対するだけでなく、旅行者をも意識した、高齢者を地域社会全体で支え合うシステムづくり（県民、教育機関、行政）。中等教育・高等教育を中心に、いつか高齢になる社会人候補者として、科学的な疾病予防・健康維持のための、知識と実践体験を持続的に提供する。働きながら気軽に体力維持・向上の時間が保障される生涯教育の体制を整え、そうした教育を受けた県民がお遍路さんを支える（県民、高等教育機関、企業、行政）。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
17	運動をして糖尿病率を下げる	<ul style="list-style-type: none"> ・大人になると全く運動しない ・糖尿病率全国1位 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日1回は運動をする。 ・車で仕事に行く人を0にする。 ・交通網を東京レベルにする。 ・糖尿病率を全国で1番少なくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病率を全国20位台にする。 ・車を30分に一回くるようにする。 ・できるだけ車を使わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を地域社会全体で支え合うシステムづくり（県民、企業、行政） ・運動をできる環境づくりをする（県民、企業、行政）
18	音楽イベント開催の機会充実	<p>施設はあるが、アクセスや施設の老朽、知名度の低さ等の問題がある。課題としては徳島県が主催する音楽イベントで街のにぎわいや人口を少しでも取り戻すことがあげられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人が音楽を楽しめる ・人口増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新ホールの設立 ・学校や市町村での音楽活動が活発化 	
19	海国日本が誇るべき和船文化の継承、発展	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋民族としての自覚が乏しい ・老若男女が海上での鍛錬を通じての感動や喜びを味わえる場がない ・日本で千年以上培ってきた、高効率な手漕ぎ文化が運搬や漁労等の実用面で機械文明に淘汰されたが、この手漕ぎ文化を他方面に生かし継承できないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から操船を通じて、動作を繰り返す習慣の大切さを身につかせ、海の厳しさを知ってもらう。 ・和船文化の多彩なメニューが選択できることもあって、世界中から観光に訓練にと人が集まり、交流の場ともなっている。 ・世界を強調させる一助ともなる競技も行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者も質量とも十分に揃い、徳島県民すべてを受け入れられる場となっている。 ・高齢者の身体機能を高め、健康寿命を伸ばすことになり、もう一度発奮して「人生の復活」に挑戦する人が増えている。 ・遠征旅行も始まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・和船文化を継承するため、水面運動場づくりに地域社会全体で取組む（県民、企業、行政） ・老若男女すべての人を対象として、感動と喜びを味わえる安全・安心な施設を整える（県民、企業、行政） ・船や道具の整備を順次進める（県民、企業、行政）
20	徳島の観光	<p>観光客が少ない。観光客を呼ぶための観光資源やツアー不足。特定の時期に観光客が集中するためホテル不足になっている。徳島県への観光客は増えている。2次交通が十分に整備されていない。</p>	<p>1年を通して楽しめる観光資源やツアーがつくられている。それにより観光客が増加している。観光客が1年を通して訪れるため、ホテル不足は解消されている。市町村ごとに観光資源があるため、長期間にわたり徳島県に観光客が滞在することができる。2次交通が整備できており、簡単にそれぞれの市町村へ訪れることができる。</p>	<p>観光資源が増えている。徐々に観光客が増加してきている。SNSを使って徳島の観光資源や特産物を発信し、多くの人に知ってもらうことができる。2次交通の整備が進んでおり、市町村ごとの移動が簡単になってきている。すでにある阿波おどりやマチ☆アソビにも力を入れ、より多くの観光客を呼び込むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源をつくる計画をおこなう。 ・すでにある観光資源の借金を返済する。 ・街の景観を良くする。
21	交通機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・電車が走っていない。 ・1本乗り過ごすと30分以上待つことになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民をはじめ多くの観光者が不自由なく自動車または電車で移動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電車の開通 ・1時間あたりの本数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・線路を増やす

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
22	防災対策強化	・津波防止の堤防が低い ・県民1人1人の防災意識の低下	南海トラフが既に起こっている可能性が非常に高いため、南海トラフから経験し、学んだことを生かして今より強力な防災対策がとられている。	・地震、津波の予測機能が発達し、適切な高さの堤防が作られている。 ・日頃から防災リュックなどの準備を1人1人が行っている。	
23	阿波おどり	・現在阿波おどりを行うも、赤字となっている ・阿波おどりの参加人数の減少	阿波おどりで地域活性化となる	今までの阿波おどりにはない新しいものを掛け合わせてみる 阿波おどり×ヒップホップ 阿波おどり×洋楽 阿波おどり×YouTube	とにかく今までにないカタチで阿波おどりをいろいろな方面から混ぜていく
24	吉野川の環境	地域再生や経済活性化のための開発により、環境破壊が起こり問題となっている。	水質が良く、天然の生物が住んでいる。	開発の仕組みを改め、川に影響を与えないようにしている。水質を良くする研究がされている。	
25	公共交通の充実	阿波おどり空港が有効活用されていない、汽車の本数が少ない。	阿波おどり空港から海外へ行き来できる便が増える。	ゆめタウンや、イオン、アスティとくしまなどの大型施設へのアクセスが楽になるような、バスや電車など、交通手段が増える。	国内線の本数を見直し、徳島から都市までの便を増やす。電車の本数を増やす。
26	障がい者の社会進出への支援の充実	・障がい者の雇用が少ない。 ・障がい者が社会で活躍できる場がほとんどない。	・障がい者も社会で活躍できる働き方が可能になっている。 ・障がい者が働くとき、様々な働き方を選択できるようになっている。	・障がい者とコミュニケーションをとれやすい仕組みが整っている。 ・障がい者など誰でもが働きやすい仕事環境を整える。	・障がい者が社会進出しやすいように地域社会全体で支えあう仕組みを作る。
27	交通マナーの改善と道路の整備	自動車の交通マナーが悪い。（歩行者優先ができていない。バイク、自動車による無駄な騒音など。） 道が悪い。（夕方時の混雑。大通り以外の道が狭いなど。）	・交通事故の半減を目指す。 ・バイク、自動車等の無駄な騒音を皆無にする。 ・バイパスなどを導入し、渋滞を防ぐ。 ・大通り以外の道も整備する。	・警察などによる交通に関する取り締まりの強化を行う。 ・全年齢対象で交通安全教室や、交通に関する講演を行い、一人一人の意識を上げる。 ・自動車学校でより厳しく指導する。 ・道路整備の計画を立てる。	ポスターなどで交通安全を呼びかける。
28	食を通じた働き口の充実	・徳島の平均年収が都市部と比べて低い ・移住者の働き口が充実していない	・徳島が食文化の代名詞 ・海外からの観光客が増加 ・ロボットによる生産力向上と伝統製法の両立 ・人生100年時代の食糧確保	・第一次産業の担い手の育成する施設の整備 ・海外と徳島の物流ルートの確立 ・食品に関して徳島をブランド化 ・第一次産業の収入が安定に ・移住希望者の移住先になっている	・農業などを学ぶことのできる専門大学の設立 ・農業を学びに移住してきた人の援助 ・農業を行う場の提供

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
29	糖尿病の患者の減少×地域活性	2017年に糖尿病による死亡率が4年ぶりワースト1位になった	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の患者・死亡者を0にする ・スポーツで盛んな県にする ・藍によるサプリの販売 ・国際交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の対策を運動でも行う ・スポーツ大会の開催 ・食藍メニューを販売するカフェの増加 ・ベジタリアンなどの食文化を学ぶことによる、糖尿病対策と異文化理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツを始めとした、徳島だからこそできるスポーツや運動（ラフティング、ダイビング、歩き遍路、阿波おどりなど）の広報やイベントを行う。 ・阿波藍は血糖値低下や、体重増加抑制の効果があるので、サプリや食藍の企画をし、販売できるようにする。
30	交通機関の充実	<p>汽车の本数が少ない等、車以外での交通手段が少ない。そのため徳島の観光客の通勤通学で利用する以外の人にとっても移動手段で困ることが多いのではないかと思う。さらに、家の近くに買い物ができる場所がない高齢者の方にとっても、同様のことが言えると考えられる。</p>		<p>徳島の祖谷地方から牟岐方面までの各地域においてバスや汽车の本数を増やす。</p> <p>スーパーの少ない地方を週二回くらいワゴン車等でまわるか、バスをだす。</p>	
31	徳島の発展と観光客数の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島駅から眉山にかけての建物の老朽化、お店の少なさ、アーケードの寂れがひどく、阿波おどりを見に来た県外や海外の人が、阿波おどりが始まるまでの日中に行く場所がなかったり、徳島県民で車を利用する人の多くが行くところがないので徳島駅前には行かないと言う人が多い ・スケートリンク、ウォータースライダー付きの流れるプールなどもなく隣の香川県に行く人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県全体が発展、都会化する ・各観光スポットが活性化する ・交通の便が良くなる ・徳島を訪れる人が増える ・住みやすさから移住者が増加する ・徳島で住み続けたいと思う人が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島駅から眉山までの建物を新しく、近代的なものにし、徳島県に訪れた人たちにまず、徳島は住みやすいような綺麗な場所だという印象を持ってもらう ・アーケードも綺麗に改装、若者が訪れたいと思う店舗の増加に力をいれる ・新町川沿いの景観を活かしお店を増やすなど散歩しやすくする ・各観光スポットの分かりやすいパンフレットを徳島駅など各駅やバス停、道の駅などに置き観光客が手に取りやすいようにする ・うだつの町並みは若者向けの和柄小物や藍染小物のお店やカフェや旅館、レンタル着物の充実をさせる ・イルミネーション、プロジェクトマップ、公園でのフラワーイベントなどを増やす 	<p>観光客増加や徳島の発展への取組を行う体制を整える</p>

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
32	公共交通機関の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の本数が1時間に1本しかない時間帯があり、使いにくい（特に南行き） ・ バスの路線と本数が少ない。 ・ 汽車が通ってない、駅がない地域がある ・ 汽車がすれ違いのために数分間とまることがあるため急いでいるときは不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車及びバス等の本数・路線・駅が増え、使い勝手がよくなる。それにより、老若男女様々な人たちが県内地域を自由に行き来できるようになり、県内全体が活発になる。 ・ また、県外・国外から来た人も県内のいろいろな地域を行き来できるようになる。 ・ 公共機関の発達により都会のように車を使用する人が減り、歩いて通勤・通学・買い物等する人が増え、生活習慣病も予防に少しでも繋がるかも？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足腰に不安がある老人がちょっと買い物をしたいときに役立つものになっている。 ・ また汽車の来る時間帯が増え行き来しやすくなる。（特に学生や会社員などに人気？） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の場合は、従来の一本の線路から二本の線路にすることで汽車のすれ違いがなくなる。 ・ バスは路線の拡大を検討してみる。 ・ 県民にどこに駅を増設するかなどを調査してみる。
33	自然エネルギーと水素の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素車が燃料を蓄えるための設備が整っていない。 ・ 水素車の価格が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素車が今のガソリン車のように燃料を入れるのが当たり前になっている。 ・ 水素車の価格が一般の人の手に届くような価格になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショッピングセンターや市役所などに水素ステーションを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素ステーションを設けるための資金集めとして募金活動を行う。
34	災害時の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所となっている場所の少なさ ・ 仮設トイレの量 ・ 避難所の安全性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所には災害時に必要な物資が常備されている。 ・ 仮設トイレの種類が洋式や車いす用などがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の数が増えている。 ・ 仮設トイレが設置されている。 	
35	観光入込客数日本一を目指そう！	<p>徳島県の観光入込客数は年々増加傾向にあるが、日帰り客や県内客が多い。 県外からたくさんの人に徳島に来て滞在してもらうための取組を行うべき。</p>	<p>徳島県にUSJやディズニーリゾートのような大型施設ができており毎日にぎわっている。 長期休業や休日だけでなく、平日も県外からの観光客などで宿泊施設が満室になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは日帰りでもいいので徳島県を訪れてもらい、徳島ならではの雰囲気や魅力を実感してもらって、もう一度来たいと思う人が増えている。 ・ 徳島といえば阿波おどり。外国人にもとても人気で外国から招待されて、徳島県だけでなくさまざまな国でも踊る機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは2020年に開かれる東京オリンピック・パラリンピックの時に、徳島の阿波おどり、お遍路、食など観光資源の魅力をたくさんの人にPRする。 ・ 徳島県にはなにもないのではなく、私たちが徳島県の良さに気づいていないだけである。だから日頃から自分の地域の良いところを意識して、その良さを日本中に発信していくべき。
36	移住者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者が少ない。移住し易い土地が少ない。移住者に対する支援サービスがない。山近くで降る雪の対策が現状どうなっているのか県外の人に伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪に対する対策が万全であり、尚且つ他県の人又は移住してこようとする人に、その事が分かりやすくどこかに掲示されている。 ・ 移住者に対する支援サービスが受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援サービスが受けられ、徳島のいいところが分かりやすくなっている。 ・ 県庁が県の中心部にないため、県庁に行かなくても良いような施設が作られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他県が実施しているようなサービスを実施

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
37	観光	宿泊者数の低迷	宿泊施設の整備ができており、国内の観光客も日帰りではなく、泊りで観光をしている。	外国人観光客がより増えて長期間滞在している。	まずはたくさんの方が来るよう県民も宣伝に力をいれ、そこから県が主体となり企業などと連携しホテル・旅館の整備にあたる。
38	高齢化社会への今からの対策	介護職の不人気によりヘルパーの不足。そのため、介護をしながらの仕事が難しい。	介護職が超人気職になり、高齢者もさらに幸せに。ヘルパーが増えたことにより仕事に専念できる。	ヘルパーへの優遇制度の確立。高齢者世帯への政府からの支援が行き渡るような法制度の案作成。	
39	地方回帰	・大企業や実力のある中小企業の都市部への集中 ・交通の便が悪い	助成金などを活用し企業を誘致	信号管理システム等の改良、鉄道のダイヤ改正などで効率的な人の移動の実現	勤務時間の調整などで渋滞するリスクを軽減する
40	合区問題について	現在、徳島県と高知県は、2つの県で1つの選挙区になっていて、議席が少なくなっている。	合区問題が改善され、両方の県に選挙区が設けられるようになっている。	・徳島県が現在よりも発展していて、人口が多くなっている。 ・合区問題を改善するために様々な議論がされている。	徳島県を発展させるために、徳島県の伝統や名産品を他県にアピールする。徳島県に住みたいくなるようなまちづくりをする。
41	徳島県の観光収入の増加	県で一番のイベントである阿波おどりで赤字が出ている。	・阿波おどりが日本三大祭りなどに数えられるようになっている。 ・マチ☆アソビで行われるeスポーツに海外からの参加者が増える。	・2020年のオリンピックをきっかけに阿波藍が認知され有名になっている。 ・阿波おどりで赤字がなくなっている。 ・マチ☆アソビでeスポーツが行われるようになっている。	・徳島市でeスポーツの大会を行うことができるような施設を設備する。 ・阿波おどりや阿波藍など徳島のものに興味をもってもらえるPR方法を考える。 ・阿波おどりで赤字の原因を明らかにし主催者の体制を見直し整える。
42	地域の格差の是正	・北部に人口が集中しており西部や南部の格差が激しい ・交通が不便すぎる	・西部や南部での消費が増え企業が進出し始めている。 ・シニア世代が活躍し、地域全体で魅力をPRし、定住者が増えている	・西部や南部への道路の整備が整っている ・Wi-Fiの繋がりがやすさを利用してIT関連の企業が西部などに進出して雇用が生まれる ・空き家を取り壊され、地域の安全性が高まっている」	雇用が生まれると同時に定住してもらうためにシニア世代、学生のボランティアが保育士の代わりとなり子育てを支援する
43	若者が集まる街づくり	・希望する就職先がないことにより大都市へ人口が流出してしまっている。 ・地域産業が衰退し、後継者がいない。 ・交通網が不便。 ・男女の出会いの場が少なく、晩婚化、非婚化が進んでいる。	・企業が多く集まり、職業や働き方を選択できる。 ・地域産業が活性化し、徳島の魅力が全国に浸透している。 ・新幹線が通り、高速道路も発達している。 ・子育て支援が充実し、若い家族が住みやすい。	・サテライトオフィスが増え、徳島で仕事をする人が増える。 ・交通網の充実を進める。 ・男女の出会いの場が増え、晩婚化、非婚化を食い止める。	地域産業を知ってもらう機会を増やし、体験できる（県民、企業、行政）。子育てが安心してできるよう、支援や保険制度を充実させる（県民、行政）。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
44	産業活性化に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 観光業の維持 産業基盤の貧弱性 	<ul style="list-style-type: none"> 観光業を発展させ、日帰りではなく宿泊施設を増加し、阿波おどりなどの経費の問題を解消させる。 中小零細企業を支援し、地域産業を維持させ、産業の衰退に伴う人口減少の阻止。 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル、旅館を増加し観光業の受け入れ体制を整える。 中小零細企業の支援体制。 	
45	アニメ文化を使った徳島県の発展	マチアソビの際にはアニメ文化で徳島県が盛り上がるが、それ以外の時は盛り上がりず、アニメグッズを販売している店も少ない	アニメ文化で盛り上がり、年を通してアニメを目的とした観光客が増える。アニメグッズを販売する店も増える。第2の秋葉原のような県になる。	アニメグッズを販売をする店が増える。県民がアニメに触れる機会が増える。	
46	「とくしま帰」の具現化	働き口が少なく、県外で就職する若者が多い。	徳島に大企業が進出し、たくさんの人々が県内で働くようになる。	徳島の町が活性化され、働き口が増えて、県内で就職する若者が増える。	県をあげて、徳島県の活性化のために全力で取り組む。徳島に大企業を増やす。徳島は田舎なので、だからこそ田舎で働くことの魅力を知ってもらうためにアピールする方法を考える。
47	徳島県の観光客増加計画	徳島県には目立った観光地が少なく、観光客も少ない。また、毎年開催されている阿波おどりの赤字になっている。	徳島の自然を生かした旅行プランが話題となり、国内だけでなく国外の観光客も増加する。	音楽フェスとコラボしたり、有名芸能人を呼ぶなどし、阿波おどりの見物客が増加し、黒字になる。	<ul style="list-style-type: none"> 阿波おどりと現代の音楽をコラボさせることで、若者が阿波おどりに興味を持つようにする。また、阿波おどりは見るだけでなく自分自身で経験することでより一層楽しんでもらえると思うので、初めて来た人が積極的に阿波おどりに参加できるようなシステムを増やす。 徳島の自然を写真や映像で撮影し、SNSで更新していくことで、全世界の人に見てもらい興味を持ってもらう。
48	徳島への移住者増加	<ul style="list-style-type: none"> 若者が県外の大学や就職をしようと徳島から出ていきそのまま帰ってこないケースがある。 徳島＝田舎という認識があるうえ、あまり徳島の魅力が他県の人に伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> デュアルスクールシステムが一般化している。 徳島移住体験ツアーの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 移住ワンストップ相談窓口が様々な人に活用され、人々に認知され始める。 奨学金返還制度が徐々に利用される。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の中高生に奨学金返還システムについての説明をする。 小中高生の保護者にデュアルスクールシステムや奨学金返還制度の説明を行い理解を得る。 徳島に移住してくれる人に何か保障制度などをつける。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
49	県外から若者が戻ってくる、世界中からの移住者増化	・町の魅力が知れ渡っていない ・そもそも魅力が少ない	たくさんの方が徳島にやってきました、定住している。	お遍路やマチアソビなどのイベントが知られて、県外に出て行った若者が戻ってきたり、世界から移住者がきたりする	・若者が戻ってきやすいような政策を作る ・外国人も住みやすい街作り
50	お遍路の知名度を上げるには	県外の人に、あまりお遍路を知られていない。	全国の方が、“徳島のお遍路”を知っており、徳島の観光名所として興味を持った人達が観光に来ている。老若男女問わず、色んな人達が訪れて楽しんでいる。この頃には、海外の人にも広く知られつつある。	四国外に住む人達にもお遍路を認識されており、お参りをする人も増えている。若者の増加率も増加している。	現状として、県外の人に、「徳島といえば何を連想するか」を聞いてみると、阿波おどりやスダチといった比較的有名なものが挙げられた。お遍路は中々挙げられず、中にはお遍路という言葉さえ知らない人もいた。このことから知名度があまり無いことが分かる。お遍路を広めていくには、お遍路を全面的に押すのではなく、まずは徳島の有名なものから繋げていく。といったスタイルで勝負した方が良いと思われる。
51	リノベーションシティ徳島	人が住んでいない住宅や使われていない店舗などの「空き家」が徳島市内に3563棟あることが、市が全域を対象に初めて行った実態調査で分かった。このうち一戸建て住宅は73.5%の2619棟に上る。過疎地の問題と捉えられてきた空き家が県都でも点在し、都市部の空洞化が進みつつあることが浮き彫りになった（徳島新聞. 2017. 4. 29）	空き家や廃校をリノベーションし、カフェや農産物直売所などが立ちならぶ「古民家通り」や阿波おどり連、音楽団体のための練習場「廃校ホール」ができる。阿波おどりやマチアソビ期間は宿泊施設として活用する。また廃校のグラウンドを使ってキャンプ場ができる。これらは県内外問わず、たくさんの方が利用可能である。	まずは空き家の現状を把握する。そして、あまり老朽化していない空き家に耐震補強をし、活用する。例えば、地域のお年寄りの方が共働きで家に一人にいる子どもたちの面倒をみる場、地域の方々が集まって気軽に話をしたり、くつろぐことができる場とする。地域の方々の交流の輪を大切にできる場として、さらに避難所としても活用できるようにする。	
52	ドローン学校の開校	徳島県はドローンに対して関心が低い。	ドローンを操縦できる人材がたくさん生まれており、社会で活躍している。	ドローン学校がいくつか建って、質の高いドローン教習を受けることができる。	ドローンに関心を持ってもらうため、小学校、中学校、高校に行って講演会を開く。
53	徳島の発展	若者の減少 交通機関 施設の少なさなどアピールできるポイントが少ない	若者増加 施設の増加 交通機関の充実	長期ビジョンの広報を、することによって若者の関心や興味を、集める	施設建設 ネットやCMをつかった広報

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
54	広域的な移住	<ul style="list-style-type: none"> ・県外からの移住者は年々増加傾向にあり、官民一体となってその取り組みを推し進めている。 ・外国人の移住には高い壁があるが、IT分野などの高度外国人材の移住には優遇措置がとられるなど、政府の方針として前向きに行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島の魅力である「田舎感」と「IT環境」を活かして、国内の移住者が過疎地を活性化し、海外からの移住者が徳島全体の技術を押し上げていっている。 ・また、様々な文化を受け入れることのできる徳島で、諸外国の文化が融合し合い、新たな文化の発信地となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住に関する施策において、移住者への補助やサポート体制が強化され、移住しやすい環境が整っている。 ・「田舎への移住なら徳島へ」というような「ブランド」ができている。 ・海外からの移住者を積極的に受け入れたり、そのような情報発信を行うことで、移住視察団のような団体などの訪問がおこなわれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者の起業などを地元の地域社会全体で支え合うシステムづくり（県民、地元企業、行政）。 ・移住者を県民が受け入れやすくするための体制を築く。例）説明会の実施や移住者と地元民の間に交流の場を設ける。
55	南海トラフ巨大地震に係る「新たな防災対応」の推進について	南海トラフ地震が起きて次に行うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を体験した人の講座 ・また大きな地震が来るかもしれないから準備する ・高台をもっと高くする 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずゴミを拾ったりして周りの周辺を綺麗にする ・被害を受けていない県は支援をする ・未来に向けた新たな地域を作っていく ・人と人が助け合って生きていく 	南海トラフがいつ起きるのか分からないのでいつ起きてもいいように備えておく。
56	自転車や自動車等の違法駐車について	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道や駅前での違法駐車によって通行時の視界が悪くなるなどの影響が出ており、交通事故が起きやすい。 ・町に駐車禁止のステッカーを貼ったり看板を建てても減らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の違法駐車がほぼゼロになる。 ・駐車場が多様化し、便利さが上がり、駐車してから目的地まで長距離を歩かなければならないなどの不便さがなくなり、違法駐車をする必要がなくなる。 	学校などで開かれる講演会により、県民に駐車してはいけない場所に駐車することへの違法性、危険性が浸透する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や自動車教習所などで自転車、自動車の違法駐車による問題についての講演会を開き、問題を意識させる。 ・町の殺風景さ、必要な他の建物が建てられなくなるなどの課題を防ぐため、地下駐車場の増設を進める。
57	障がい者支援の充実	車いす利用者は、点字ブロックの段差が通行の妨げとなってしまう。しかし、点字ブロックをなくすことはできないので、対策を考えるべきだ。	視覚障がい者と車いす利用者が通るのに十分な幅の道を確保する。	徳島市内周辺の主要な歩行者の道路を拡張する。	障がい者の実際の声を聴きながら政策を進める。（行政）
58	高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスが悪く買い物に行くのも大変 ・高齢化に伴う若者の減少 ・バリアフリー設備の不充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の多い地域にスーパーやコンビニを作る ・バスや電車のステップをスロープに変える。 ・多くの若者が高齢者を支えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くて買い物に行けない高齢者対象の配達サービスの充実 ・外付けのスロープの実装 ・若者が高齢者を支えていけるような設備の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・配達サービス開始のための制度の実装 ・高齢者の多いバス対象のスロープ実装検証 ・若者と高齢者が交流できる場所づくり

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
59	労働と育児の環境をよくしよう	労働者と若者及び子どもの減少による過疎の深刻化。それにより県の財政等が維持困難に陥る懸念。	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と同程度以上の多様な職種・職業があり、それらに就くことができる。 ・育児サービスや施設が充実していることから全国でも県内の出生率がトップクラスになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィスや労働環境の是正による労働人口の増加。 ・出生率の向上により人口は増加が見込まれる。 	労働基準監査の厳格化及び現時点の労働環境・状態の認知（雇用者・県民・企業・行政）起業者のサポート制度の施行（企業、行政） サテライトオフィスの受け入れ、促進（企業、行政） 会社が積極的に育児休暇や育児制度を紹介、利用を促す（企業、行政） 保育士の養成、保育所、幼稚園等の育児施設・制度の充実（行政、教育機関）
60	徳島県民が徳島に留まるor帰省	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県民のほとんどが徳島は田舎であると認識している。 ・徳島市は比較的発展しているが、市から離れば何もない。 ・徳島の自然を生かしたものが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島市だけでなく他の市にも大型スーパーや娯楽施設がある。 ・自然の豊かさを生かした（いちご狩り、ぶどう狩り）ものやイベント（題材に沿った写真を撮って優劣を決めるなど）、ツアーがある。 ・徳島の宿泊施設に徳島ならではのことが体験できるツアーやイベントがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型施設へ行くまでの交通網が整っている。 ・徳島にもこんな大型施設ができた（できる）ことをチラシやインターネットを通して宣伝する。 ・中学校や高校の授業の一貫として市内などのホテルなどに行き、徳島がどのような取組をして観光客を得ているのかを知ることができる行事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県民にどんな施設があればもっと徳島で有意義な生活が送れるか、アンケートで問いその結果の上位のものを作る。
61	高齢者が住みやすい街へ	高齢者施設が少ない、バリアフリーが進んでいない	高齢者施設が増え、バリアフリーが進んでいることで、高齢者で車いすで生活している人でも住みやすい街になっている。	高齢者施設が整っている、バリアフリーが進んでいる。	高齢者施設の設置、バリアフリーの設置
62	助けられる犬・猫殺処分ゼロに向けた施策の促進	犬・猫の殺処分数年間1600頭	犬・猫殺処分数ゼロへ	<ul style="list-style-type: none"> ・放し飼い、避妊の徹底 ・望まない繁殖の防止 	マイクロチップの装着を義務づける。
63	高齢者の住みよい社会づくり	14歳以下の人口が減っているのに対して65歳以上の人口が増え続けている。	高齢者が長生きすることで健康寿命が伸びてくる。	子どもたちと定期的にふれあう機会を設けることで楽しみが増えることとなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方は遠出して買い物に行くことは難しいので移動型スーパーを使ってもらおう。 ・高齢者の方と子どもたちのふれあう機会を設ける。
64	科学技術について	最先端の技術によるサービス、医療を受けることができない。	最先端の技術による医療等を受けることができる。徳島から最先端の技術を発信できる。	2030年までの技術に追いついている。科学者を呼びやすくする、経済を回すために人を呼ぶために交通機関を充実させる。	交通機関を充実させる、使われていない建物を研究所として改築する。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
65	人口減少と少子高齢化の対策	・年々、人口は減少 ・地元の過疎化が進み、若者は減りお年寄りは増加	・都市部と地域の格差が全くなくなり、同等なサービスが受けられる ・保育サービスが充実化、多様化し安心して子育てに取り組めるように	・人口対策が徐々に施行されていくが、まだ人口が目に見えて増加することはない ・保育サービスが向上するが、まだまだ問題が残っている状態	
66	交流人口の増加	国全体で人口減少が進んでいる中、定住人口の増加は困難である。		二地域居住・消費が実現している。	・格安な地域間移動手段が必要。航空便でLCCは必須。 ・固定資産税制や住宅ローン等の仕組みを複数所有・管理を前提としたものに改善する（行政、企業）
67	ライフワークバランス	経済力のことを考えると結婚後は共働きが必要。		炊事等の家事全般が機械化、自動化され、仕事、育児、余暇に十分時間を取れるようになっている。	・技術開発や導入についての投資や財政支援を惜しまない（行政・企業） ・積極的にIoT器機を使う（県民）
68	まちづくり			自然と調和の取れた宅地開発が行われている。	大雨時の降水の受け皿となっていた一団の農地が宅地等に転用され、何の代替措置もなければ浸水・洪水が起こるのは明らかである。（行政、企業、県民）
69	ライフスタイル	法律上、結婚というと「婚姻」ひとつしかない。それ以外の選択に対する法的保護が薄い。		当事者のライフスタイルや希望に沿った選択が徳島県では可能となっている。	・法改正、運用改定（行政） ・制度の活用（県民）
70	医療	災害時の医療については医療機関も被災し機能しないおそれがある。		どんな災害にも耐えうる（倒壊、停電等が起こらない）医療施設、福祉施設が複数整備されている。	
71	農業	大規模農家になるためのほ場整備が進んでいない		大規模農業に向けてほ場整備が進んでいる	
72	観光施設の充実	観光施設が少ないように感じる。県民も観光客も楽しめる場所づくりが必要と思われる。	・観光施設やイベントが充実して、徳島県民も観光客も徳島を楽しんでいる。 ・公共交通機関や駐車場が整って、人々の移動に困難を感じない。	県民や観光客モニターが公共交通機関や駐車場を試験的に利用し、観光イベントを体験する。利用者アンケート等でどのような観光施設や交通機関の利用方法がよいか意見を募り、検討する。意見をもとに、観光の環境が充実してくる。	・例えばアスティとくしまでコンサートなどのイベントの際、簡易の観光イベントをする。 ・県民、企業、行政が協力した観光政策づくり。 ・また、県民も観光客も利用できる公共交通機関（バス、JRなど）の運行時間帯の多様化や、駐車場の充実。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
73	四国新幹線実現に向けて	四国地方は唯一の新幹線空白地帯である	得たお金で新幹線が走れるように地面を平地にする。そして四国地方は、台風や水害、土砂災害の被害の危険性を多分に含んでいるため、線路が通るところの地盤強化などを進め線路を通し新幹線を作る。	全国の人々に四国の魅力を伝える必要がある。徳島だったらマチアソビや阿波おどりなどの魅力を全面的に表に出す。そうすることで四国自体を認識してもらおう。そこから四国新幹線の有用性を理解してもらい、お金の援助を受け財政を確保する。	財政確保、新幹線開通の有用性の理解をしてもらう。
74	とくしま4Kスーパーハイビジョンテレビピア・とくしま8Kスーパーハイビジョンテレビピアについて	とくしま全県光CATVネットワーク網を基礎にしてとくしま全県光情報スーパーハイウェイを構築する。	4K・8Kを活用してICTテレワーク在宅勤務制度が普及している	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県全県4K・8K教育の光の道（4K・8K電子黒板） ・徳島県全県4K・8K医療の光の道（4k・8k遠隔地医療） 	官民一体となって取り組みを行う。
75	人口減少・過疎化問題	県外の若者に徳島を知ってもらう機会が少なく、県外から徳島に就職をしたいという若者が少ない。まずは徳島に興味を持ってもらうことから始める必要がある。	<p>「夏の徳島体験学校」を経験した子どもたちが定年退職を迎える頃になる。平均寿命が今よりも延びている。高齢者の学びの意欲を尊重し、徳島の教育機関で「高齢者学校」が開校され、そこに地元はもちろん全国から高齢者が学びにやってくる。</p> <p>「高齢者学校」では医療、音楽、美術、英語、情報など様々な講義が開校され、高齢者は自分が学びたいコースを選択できる。もちろん体育祭や文化祭、修学旅行も行われ青春時代をプレイバックできる。</p> <p>高齢者学校で学んだことを活かして、県内企業に再就職できる道筋もできている。</p> <p>なお、「夏の徳島体験学校」の卒業生は「高齢者学校」への入学金が一部免除される。</p>	<p>「夏の徳島体験学校」を経験した子どもたちが就職をする頃になる。小学校の時の徳島体験から徳島で就職したいという思いを持った人が増え、県内企業を盛り上げる。「夏の徳島体験学校」の卒業生には移住して最初の数年間は補助金が出る等の恩恵がある。</p>	<p>「行政」「教育機関」「県内ボランティア団体」を中心に「夏の徳島体験学校」を企てる。</p> <p>県内で夏の間の1週間程度、県外の小学生を受け入れてくれる家庭を探す。県外からやってきた小学生に徳島ならではの夏休みを体験してもらう。</p> <p>虫取り、水遊び、畑仕事、藍染体験、阿波おどり 等</p>
76	交通の快適	阿南から徳島に行くのに車だと混雑することが多く緩和が必要	高速道路が県全体にありどこにいくのにも快適になっている。	南部から市内に行く時間が短縮されている。	高速道路を南部まで通す。

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
77	糖尿病の改善案	県は糖尿病の患者数が全国ワースト1位である。	様々な薬の開発、食生活の改善により患者数が激減	一人一人の生活の改善により、患者数が減少	各地で講演の実施。メディアでの呼びかけ
78	釣りで観光振興と釣り文化継承	豊かな自然と、魚釣りをするには抜群の環境にあり、古くから阿波釣法の名で知られる高い技術で釣り界では、確固たる地位を築いた徳島の釣りに加えて、磯釣りやグレ釣り発祥の地と言われる阿南市福村の磯や牟岐町大島の磯など全国に誇れる、資源がありながらこれまで十分な活用策がありませんでした。自然と伝統を活用し地方創生へとつながるよう推進。	森林保存や環境意識の向上に、稚魚放流や産卵床の整備、河川の魚道や魚の隠れ場の増加により、多くの魚介類がとれるようになる。自然環境も今より増加している。 多くの人が、気軽に安全にレジャーとして、老若男女や障がいの有無に関係なく、釣りや潮干狩りなど楽しみ、スポーツとしての釣り大会へ出場するハイレベルな釣り人の育成も行われる「すそ野を広げ、頂点を高く」という理想的な状態になっている。	釣りをするだけでなく、森林保全など環境面や安全面などの啓発も含めて、各種関連機関や団体との連携、また他のアウトドアレジャーとの連携でますます楽しみが広がる、連絡協議会的な組織が整い、観光としての釣りや大会などスポーツの側面もある釣りが、地元メディアとも連携し県民にとって文化としても広く認知され、釣り業界にも活気が戻る。また、グレ釣り発祥の地牟岐町の大島で全国（世界）グレ釣りの頂点を決める大会が毎年開催され、全国から多くのトップアングラーが訪れ、一般の釣り人からの認知度もさらに向上し、メディアとの連携も含め県南への注目度が高まる。	釣りを取り巻く、業界（釣り具店・メーカー・釣り船）や水産関係者（魚食推進＝漁協・漁師・魚料理店など）、森林保全や環境対策、安全対策（海上保安部や消防）、その他のアウトドアスポーツとの連携で、自然の中で遊ぶながら、安全や環境も含め、正しいルールを守れるような、県全体を巻き込んだ、組織作り（連絡・連携を取り合える仕組み）が必要。そのためには、観光協会や行政、釣り人やアウトドア愛好家の理解を得る。
79	これまでのスポーツ強化策の見直し	「有力選手を特定の高校へ集め…」 「ジュニア期から発掘しトップレベルに競技者に育成」とあるが人材の「先細り」になる。才能がたまたま開花した子のみを選抜していく方法では、人口の少ない徳島では都会にかなわない。ジュニアは正しい体使いと知識のもと多競技を楽しみながら巧緻性を高め、高校では特定校が主となり全県のレベルアップを図るよう共同での取組を義務づけて、素地が構築できるようになっていない。	部活動という考え方は皆無に。クラブチーム化。顧問ではなくチームの運営者として報酬ももらえるように。アスリートのセカンドキャリアは当たり前。小学校の体育から正しい体使いと知識を学び、巧緻性を高める運動に重点。ジュニアスポーツから社会人までスポーツの雰囲気も旧態依然としたものでなく、「活動できる範囲内でする」が当たり前。競技力向上を求めつつ、底辺も拡大（全員が何らかのスポーツに取り組む＝健康維持）。スポーツを通じ何を学ぶかに重点がおかれる社会でありながら、競技レベルは科学的トレーニングにより、現代とは比べ物にならないものになっている。バーチャルで様々な競技体験でき徳性にあう競技選択ができる。	「生涯スポーツのスタートは高校の部活動」という考え方に。高校から競技をはじめる生徒も歓迎する部活動に。週1しか練習に出られない子も全国トップを狙う子もチーム内に混在でき、ともに高め合いながら競技力と社会で通用する人材を育成できる組織体系に。独自の表彰規定を見直し、競技の成績も加味しつつ、部員数や取り組んでいる内容などで表彰（全国大会への出場資格は成績だが、県内では独自の採点方法を設け、一時の結果だけでない表彰制度に） 国体など選考方法は成績優秀者だけでなく「挑戦したいという者」も選考会に出られるように。燃え尽きる傾向のある選手に加え協会の運営側になりうる「やる気のある子」にも機会を。	全国出場のリポートを実施。勝つことにこだわる顧問の排除。「保護者力」の活用＝救護・写真や文章で広報・施設の美化や修繕など。「親は口を出さない」の美德→人材は活用する。まさに県民総ぐるみでスポーツ振興へ。大人は「チームに関わらず、すべての選手のサポート役との位置づけ」に。これが日本全体のレベルアップにつながっていくことになります。都会のマネでなく独自施策で勝負。まさにvs東京の精神で！

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
80	災害	山の荒廃		全ての山林、森林が私有林が適切に管理され、荒廃した山林はなくなっている。災害、温暖化の危険を回避。	
81	少子化対策			実子、養子にかかわらず、子を持つことを希望する人が子を持てる環境が整っている。	
82	出産			代理父母、代理出産等の技術的、倫理的問題が解決されている。	
83	医療			災害時、非常時の医療の確保。中等教育程度の段階で全ての人がある程度の医療知識と技術をつけ、簡易な医療行為が行える資格を創設する。	
84	男女共同参画			性別に関係なく能力に応じて社会に参加できるよう、障壁となる社会システムが取り除かれているだけでなく、固定観念、偏見等からくる慣行もなくなっている。結果の平等の重視。	
85	教育			公立小・中・高しかほぼ存在しない徳島で、個性を磨く教育をどう行うのか。学問にしる、スポーツにしる芸術にしる、1点集中で特化した教育機関があっても良いと思う。	
86	貧困対策			見返りを求めない、寄付文化が根付いている。チャリティマラソンなど、自治体主催の様々なイベントを寄附と結び付けて開催（例：寄附付き商品の販売、参加料の一部を寄附するなど）	
87	スポーツ			スポーツに幼いころから親しみ続けることは、将来の成人病等の予防に繋がる。都会に比べ未利用の土地はいくらでもあるはずなので、耕作放棄地をいつまでも農地として死守するのではなく、多目的に利用できるグラウンドや競技場として多く広く県民に提供すべきである。	

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
88	暮らし			自家用車がなくても不便なく暮らせる。	交通手段を提供するか、地域内で完結する生活インフラを整備する。
89	遠隔地交流			徳島から離れたところからもICTを使って距離を克服。 例）東京から徳島にいる父母の様子が手に取るように分かる。	
90	結婚			若い世代が職につけ収入面等、将来に対する不安がない社会。	
91	結婚			若い世代が正規の職に就け、社会保障についても将来設計が描けるような社会を実現すべき。	
92	子育て			病児・病後保育サービスなどやそれを代替するサービスが充実した社会。	
93	科学技術			自動運転技術を早く実現すべき。	
94	科学技術			AIをもっと日常生活に活用し、高齢者の日常サポートや見守り分野に導入してほしい。	
95	科学技術			AI等で代替できる仕事は代替し、限られた人材（若者）には十分な教育機会を与え、代替不可能な職につかせ相当額の報酬を与えるべき。 （企業が搾取するのではなく）	
96	子育て			少子化の状況でも他地域の子どもと一緒にスポーツ等競い合える機会がある地域となってほしい。	
97	子育て			子どもを産み育てるには、その親となる大人が子どもを養えるだけの収入がないとムリ。適切な労働時間で適切な賃金が得られる社会と、そのような仕事に若者がつけるような社会を実現すべき。	
98	子育て			子どもがひとりで遊びに出かけても、心配しなくてすむような社会になってほしい。	
99	3Dプリント技術の活用			3Dプリント技術を駆使したものづくり拠点	
100	食			食の安全安心、食品ロスにも配慮したグルメ県	
101	交通			公共交通機関の車両がカラフルすぎる県	

連番	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
102	交通			徳島市中心部等の交通渋滞が緩和されている。	
103	技術革新			IoTやAIといった技術を使ったものが次々と徳島で実践されている。	
104	スポーツ			プロスポーツが身近に感じることができる環境が整っている。	
105	自然エネルギー			自然エネルギーの導入が進み、スマートな徳島県として世界に認知されている。	
106	徳島の過疎化	<ul style="list-style-type: none"> ・居住区や就職先の減少と、公共施設と娯楽施設の閉鎖。 ・子育てをしながら働ける場所や、若い人達が住みやすく定住してくれる環境が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県独特の、働き場所と土地を生かした居住区の設立。 ・徳島県はネット環境が他県に比べ整っているため、それを主体とした会社を他県から移動。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人達が安心して暮らせる町づくりと、他県の会社への話を持ち掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット環境が整えば出来る業種をリストアップし、場所や環境を整えながら交渉する。 ・地域で子育て世帯への補助、援助を増やす。